GM 鶴牧-3 環の会

第 73 回クラシックを楽しむ会

2023 年 3 月 19 日(日)19:00～(1 時間 5 分)

タイトル : **歌劇「ジャンニ・スキッキ」(プッチーニ)**

会場等 : ロスアンジェルス・オペラ
ドロシー・チャンドラー・パビリオン(アメリカ・ロサンゼルス)
(2015 年 9 月 24 日、10 月 3 日)

楽団等 : ロスアンジェルス・オペラ
管弦楽団

指揮 : グラント・ガーション

演出 : ウディ・アレン

出演 : プラシド・ドミンゴ
(ジャンニ・スキッキ)
アンドリアーナ・チャッチマン
(ラウレッタ、スキッキの娘)
アルトゥーロ・チャコン・クルス
(リヌッチョ、ツィータの甥)
メディス・オーワディ(ツィータ)
その他

偽の遺言をでっちあげるスキッキ(中央)と筆記する公証人(左)、右は恐怖におびえる親族

簡単なあらすじ

息を引き取った金持ち老人の遺言書に、遺産はすべて修道院に寄付すると書かれていて、遺産目当てに集まっていた親戚一同は大慌て。助けを求められた法律に明るいジャンニ・スキッキは、偽の遺言書をでっち上げ、莫大な遺産を見事に横領する。

見どころ・聴きどころ

ジャンニ・スキッキの娘ラウレッタが歌う可憐な**アリア「私のお父さん」**は誰もが知る名曲。

会場

ドロシー・チャンドラー・パビリオンは、ロサンゼルスの総合芸術施設「ロサンゼルス・ミュージックセンター」にある歌劇場で、ロスアンジェルス・オペラの本拠地。劇場は 4 層構造、3,197 の座席があり、かつてはアカデミー賞の授賞式が行われていた。本公演当時のロスアンジェルス・オペラ総監督はプラシド・ドミンゴ。

ドロシー・チャンドラー・パビリオン(ダウンタウン・ロスアンゼルス)

第 74 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル:**「カルミナ・ブラーナ」(カール・オルフ)**

4 月 16 日(日) 18 時 30 分開場、19 時上映開始

ファビオ・ルイージ指揮のフェニーチェ歌劇場管弦楽団 ベネチア・サンマルコ広場特設会場での演奏会。

レグラ・ミューレマン、ミヒャエル・シャーデ、マルクス・ウェルバおよびフェニーチェ歌劇場合唱団、ベネチア児童合唱団。

”おお、運命の女神よ”、で始まる”性愛の悦びが、時には打楽器で荒々しく、時にはア・カペラで声高に賛美される”名曲。

あらすじ

【時と場所】

1299 年 9 月 1 日の朝、フィレンツェ。

【主な登場人物】

ジャンニ・スキッキ（バリトン）、フィレンツェ市外に住む田舎者だが、法律に詳しく、物真似上手で機転の効く男、50 歳

ラウレッタ（ソプラノ）、その娘、21 歳

リヌッチョ（テノール）、大富豪ブオーゾ・ドナーティの甥、ラウレッタとは恋仲、24 歳

その他、ブオーゾの親戚一同、医者、公証人、証人など

【全 1 幕】息を引き取った金持ち老人の寝室とテラス

金持ちの老人ブオーゾ・ドナーティが息を引き取り、見守っていた親族一同は嘆き悲しむが、実は遺産の行方が気がかり。遺言書に遺産は修道院に寄付すると書かれているとの噂に、貪欲な一同は必死に部屋を探しだす。ブオーゾの甥のリヌッチォが遺言書をみつける。リヌッチォは叔母のツィータに「もしブオーゾが遺産を残してくれて金持ちになれたなら恋人のラウレッタとの結婚を許して」と懇願する。

遺言書には噂通り「遺産は修道院に寄付する」と書かれていて一同落胆。何かいい知恵はないものか思案していると、リヌッチォは恋人の父スキッキを推薦。皆が反対するのでリヌッチョは**アリア「フィレンツェは花咲く木のように」**を歌ってフィレンツェを讃え、快くスキッキを迎えようと提案、そこにリヌッチョが呼び寄せたスキッキと娘ラウレッタが現れる。

スキッキは皆の落胆した様子に、お悔やみをいいつつも、遺産が転がり込むだろうと皮肉を言う。リヌッチォはブオーゾの遺言書を読んで、うまく助けてくれと頼むが、スキッキはこんなわからずや達の利益なんか考えるのは御免だと断る。

そのときラウレッタが父の前にひざまずき、**アリア「わたしのお父さん」**を歌ってリヌッチョとの結婚を認めてくれるよう哀願する。娘の願いにスキッキは遺言書を読み、考え込む。

スキッキは一同にブオーゾの死が外に漏れていないことを確かめると、寝台を整えさせ、自分がブオーゾになりすまし、 公証人に改めて遺言書を作らせることにする。

感激した一同は、スキッキを誉め、抱き合って喜び、リヌッチォは公証人を呼びに行く。

一同は遺産の分配について考え始め、それぞれ希望をのべ、勝手な欲を主張しあって大騒ぎ。スキッキはそれを眺めて大笑い。浮かれる一同を制し、スキッキは真面目な顔をして、もしも遺言書を書き換えたことがバレれば、 みんな右手を手首から切られ、この町から追放されると告げ、皆を震え上がらせる。さらに二度とフレンツェには戻れないぞと**「さらばフィレンツェ」**を歌って脅かし、一同をすっかりおびえさせる。

まもなく公証人がふたりの証人を連れてやってくる。

ブオーゾになりすましたスキッキは改めて遺言を述べたいと訴える。まず先の遺言の無効を宣言した上で、一同の者に、それぞれ望みのものをひととおり与えてから、ブオーゾの遺産で一番価値のある、トスカナ一番のロバとこの邸宅、さらに粉ひき場もブオーゾの友人スキッキに与えると言う。一同が騒ぎ出すと、また**「さらばフィレンツェ」**と口ずさみ、 手首を切り取られることを思い出させて遺言を終える。

公証人たちが外に出ると、親戚一同は、泥棒！と叫びながら、スキッキに飛びかかるが、彼は杖を振り回し、ここは自分の家だと追い払う。一同は手当たりしだい金目のものや手近な品を持てるだけ持って、怒鳴り散らしながら追われて出てゆく。

やっと静かになると、ようやく結ばれることになったリヌッチォとラウレッタが幸せに酔い、 ブオーゾの親戚たちが今持ち出していった品物を両手一杯に取り戻してきたスキッキは、彼らをうれしげに眺める。

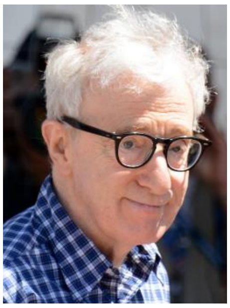
出演

プラシド・ドミンゴ

アンドリアーナ・チャッチマン

アルトゥーロ・チャコン・クルス

グラント・ガーション


ウディ・アレン

プラシド・ドミンゴ（1941－）は、スペインのオペラ歌手、指揮者、芸術監督。MeToo 運動の高まりの中、2019 年、ドミンゴが長年オペラ歌手らにセクハラを繰り返していたと AP 通信などが報道。ロスアンジェルス・オペラが調査に乗り出した結果、性的行為を強いられたなど多数の被害者が判明。2020 年にドミンゴは事実を認めて被害者らに謝罪。調査したロスアンジェルス・オペラの総監督だけでなくメトロポリタン歌劇場の芸術監督を降板、スペインなど予定されていた公演は降板かキャンセルも。東京五輪も出演辞退。
アンドリアーナ・チャッチマンは、ウクライナ系カナダ人のソプラノ歌手。主に北米の多くの歌劇場などで活躍している。
アルトゥーロ・チャコン・クルスは、メキシコ生まれの新進テノール歌手で、フェニーチェ、ベルリン国立歌劇場など世界的に活躍している。ドミンゴの弟子で、メキシコ出身**ラモン・ヴァルガス**の後継者とも言われる。
グラント・ガーションは、アメリカの指揮者、ピアニスト。ロスアンジェルス・オペラの常駐指揮者。2022 年にグラミー賞の最優秀合唱パフォーマンス賞を受賞。
ウディ・アレン（19435－）は、アメリカの映画監督、俳優、脚本家、小説家、ジャズ・クラリネット奏者。ハリウッドに背を向けた、ギャグ・ライター、コメディアンなど実に多才。アカデミー賞に史上最多の 24 回ノミネートされ、カンヌ国際映画祭では自身の作品が計 44 回も上映。1992 年当時 7 歳の自身の養女への性的虐待をパートナーに告発されたが不起訴になるも、パートナーの 34 歳年下の養女との結婚が話題に。MeToo 運動が高まり、2021 年、ウディ・アレンのスキャンダルについてのドキュメンタリが放映され、日本でも同年「ウディ・アレン追放」が出版されて各紙の書評で話題になった。

ドラマの題材

この歌劇の題材は**ダンテ**の**「神曲」**地獄篇第 30 歌から採られたが**「ジャンニ・スキッキ」**の名が現れるのは**わずかか 3 行**（次ページ参照）。この歌劇の台本作者ジョヴァッキーノ・フォルツァーノは、文献学者ピエトロ・ファンファーニが刊行した「神曲」（1866 年）の「付録」、**「14 世紀の『無名のフィレンツェ人』の著した『ジャンニ・スキッキとは何者で、何をしたか』の解説文」**を原作として台本を作成したと考えられている。

ダンテの「神曲」

ダンテはフィレンツェ出身の詩人、哲学者、政治家。14 世紀初めに地獄篇、煉獄編、天国編からなる韻文詩「喜劇」を**文語のラテン語**でなく**口語のフィレンツェ語**（現在のイタリア語）で書いた。

ボッカッチョが「喜劇」を「神聖喜劇」と名付け、森鴎外が「即興詩人」のなかで「神曲」と翻訳した。

ダンテ（ジョット作）

ダンテと詩（ミケリーノ作）

左の絵はダンテと同時代の画家ジョット作ダンテの肖像画（バルジェッロ礼拝堂）。右の絵はドメニコ・ディ・ミケリーノ作「ダンテと詩」（サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂壁画）。

「私のお父さん」（オオ・ミオ・バッビーノ・カーロ）の歌詞

私の優しいおとうさま、私は彼が好きなの。**ポルタ・ロッサ**に行って二人で愛の指輪を買いたいの。もし結婚が許されないのなら、**ヴェッキオ橋**に行って**アルノ川**に身を投げます。どうぞ神様、死なせてください。おとうさま、許して！

当時のフィレンツェ

フィレンツェは、市の中心部を東から西に**アルノ川**が流れるルネッサンス時代を代表する美しい街。度々の洪水にみまわれた。**ヴェッキオ橋**は 1333 年の大洪水で完全に流され、その後再建され橋上は肉市場になった。店の上に**バザーリの回廊**が建設され**ヴェッキオ宮殿**（**1299 年-1314 年**建造）と**ピッティ宮殿**が結ばれたのは 1565 年。1594 年に肉屋、八百屋を立ち退かせ彫金職人を集めて現在の貴金属店街になった。**ポルタ・ロッサ通り**には当時の建物が現存する。通りの名前になった 5 つ星ホテルの**ポルタロッサ（赤い扉）**ホテルは 1386 年の建造。

アルノ川とベッキオ橋、バザーリの回廊

ポルタ・ロッサ通りの碑銘

赤い扉が目印のポルタロッサホテル

ダンテ（ボッチチェリ）

「神曲」地獄篇第 30 歌の**「ジャンニ・スキッキ」**の名が現れる部分　（ダンテ「神曲」地獄篇対訳　藤谷道夫 から）

…	43 奴も、家畜の女王[最上の雌ラバ]を手に入れようと、
31 そこに残ったアレッツォ人[グリッフォリーノ]は、震えながら	44 ぬけぬけと**ブオーゾ ・ ドナーティ**になりすまし、
32 私に言った。「あの魔物は**ジャンニ ・ スキッキ**だ。(狂犬の	45 遺言状を書き取らせ、法に有効とした。」
33 ように)怒り狂って、あのように他人を苛みまわる。」	47 私がじっと視線を注いでいたその二人の
…	46 狂犬病者[**ジャンニ・スキッキ**とミュッラー]が行ってしまうや、
42 ちょうど今去って行ったあいつ[**ジャンニ・スキッキ**]と同じだ。	48 私は悪しく生まれた他の者たちへと視線を向けた。
	…

歌劇「ジャンニ・スキッキ」の歴史的背景

教皇派と皇帝派

13 世紀のイタリアは、**教皇派**＝ローマ教皇庁派と**皇帝派**＝神聖ローマ帝国派のどちらかの勢力圏に属して、互いに**血みどろ**の抗争を繰り返していた。

ヴェローナでは、実在した、**ロミオのモンテッキ家は皇帝派**、**ジュリエットのカプレーティ家は教皇派**。単に家同士の争いではなく、イタリア中を巻き込んでいた政治的な根深い対立が背景にある。

フィレンツェでは、実在した名門カヴァルカンティ家の**ジャンニ・スキッキ**も名門**ドナーティ**家も同じ**教皇派**。1289 年、小貴族の**ダンテ**も**教皇派**の一員として**皇帝派を追放**した。（歌劇のなかの）スキッキの脅し文句は、ドナーティ一族にとっても、10 年前に実際に起きた追放の恐怖に震えるのに十分だった。

白派と黒派

フィレンツェの教皇派は、新興市民の**白派**と封建貴族の**黒派**が抗争し、**白派の政治家ダンテ**がフィレンツェの使節として教皇に会いに行っている間に政変が起き、**ドナーティたちの黒派**がフィレンツェを制覇。ダンテに死刑判決が下されて各国を放浪。永住の地ラヴェンナで**「神曲」**を完成させた。